

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（技術）

報告書

令和2年7月3日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目 (技術)

部長 樋口 弘樹 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果を
まとめましたので報告します。

副部長 永田 圭 

委員 川原 修 

委員 平野 正輝 

委員 郷原 寿徳 

委員 石川 秀一 

委員 印

委員 印

委員 印

委員 印

1

発行者名		東京書籍
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応しており、不足なく取り上げている。 ・ガイダンスにおいて、技術の歴史、現代の技術、未来の技術に関する資料等を掲載しており、生徒の興味関心を湧き立たせる内容になっている。また、3年間の学習内容の見通しがもてるような構成になっている。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・QRコードを読み取ることで、資料を表示することができる。 ・「技術の見方・考え方」の解説を図式化し、「社会からの要求」「安全性」「環境への負荷」「経済性」の4点から考える工夫がなされている。また、技術の「見方・考え方」について触れている。(p.36、100、168、216) ・実習時の安全面等については、ガイダンスにすべての領域を網羅する事項が図を使用して説明されており、実習に安全に臨むことができる。 ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、技術分野の学習の流れについて説明するとともに、具体的な活動事例を記載している。 ・ガイダンスにおいて、技術分野の学習方法(p.2)、「最適化」(p.12)の記載が十分にされている。 ・A、B、C、Dの各内容の最初のページに、小学校や他教科とのつながりについて、具体的な教科の単元や学年を記載し関連付けている。 ・各編の最終章には、持続可能な社会の構築に向けて、生徒が技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりするためのワークシートが掲載されている。(p.83、135、195) ・「統合的な問題解決」のページがあり、学習を進めやすくなっている。(p.264) ・社会で活躍する技術に携わる人を「技術の匠」として紹介し、開発に込めた意図などを対話的に読み取ることができるように工夫されている。(p.79、99、190) ・問題解決の過程が分かりやすく示されており、問題を解決する力を身につけることができるように配慮されている。(pp.170～189) ・統合的な問題解決について、6事例あり、どの内容を統合して学ぶか具体を示している。 ・(市民)「情報の技術」におけるプログラミングの内容については、解説がしっかりしており、「プログラミングがどのような物に活用できるか」等自分自身で様々な問題を解決できるよう配慮されている。 ・対話的な活動のページが少ない。 ・ガイダンスにおける安全指導について、加工学習に偏って紙面が割かれている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスの分量が適切で、学校事情や生徒の実態にも弾力的に対応できるように工夫されている。 ・各内容の範囲は、生徒の生活経験・生徒の実態に弾力的に対応できるように工夫されている。 ・各内容の分量は、時数、学期、学年配分などから見て偏りがなく適切である。 ・「情報の技術」pp.200～203の内容が簡略化されている。

	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書内に使用されているマークに関する説明が丁寧である。 ・電気に関する基礎知識が資料として掲載されており、理科で未履修の場合、役立つ。(p. 149) ・高校「情報」との関連を記載している。(p. 258)、「今すぐできる！プログラミング手帳」(p. 8) ・(市民) これからの課題である思考力育成の観点から、問題解決のカード(p. 39)は大変良い。 ・余白が少なく、1ページ当たりの情報量が多い。 ・「TECH Lab」「技術のとびら」の内容が基礎的な学習内容か発展的な学習内容か明確ではない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、資料の図や写真が鮮明で見やすい。また、フォントサイズ等も適切である。 ・書体は全てユニバーサルデザインフォントを使用し、可読性を高めるように配慮されている。 ・印刷配色に淡いオレンジ、ピンク、グリーン、イエロー等を多用しているため、見にくさを感じる部分がある。
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・「生物育成の技術と環境との関わり」では、「材木を育てる技術」と「農業、林業、水産業の多面的機能」を取り上げることで、郷土の文化や環境に目を向け、持続可能な社会の構築に寄与する態度が養えるよう配慮されている。(p. 134) ・「TECH Lab」において、作業の様子を大きな画像で掲載し、わかりやすく表現するよう工夫している。(p. 50, p. 51) ・発電方法について社会・経済・環境の視点をおいたトレードオフの視点を示し、最適なエネルギーミックスについて考えることができるように工夫している。(p. 144, p. 145) ・情報モラルについては、学習活動に応じて適宜「情報モラル」マークを付して注意を促している。(pp. 211～212) ・生活や社会を支えるロボットの技術を取り上げ、技術を改良、応用していく「技術イノベーション」について考えることができるように配慮されている。 ・(学校) p. ⑤～⑥これまでの内容や、他教科の学習などと連携し、SDGsに対応した例が掲載されている。 ・動物の飼育、水産生物の育成の問題解決例の掲載が少ない(それぞれ1事例のみ)。

発行者名		教育図書
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応している。 ・3年間の学習（87.5時間）を見通した編集内容である。 ・社会を支える技術、技術による問題の解決、社会の発展と技術の3つの要素を学習しやすいように段階的な配列になっている。 ・ガイダンスにおいて、「生活を支える技術」「技術による問題解決」について、ふれている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習時の安全面等については、ガイダンスにすべての領域を網羅する事項が図を使用して説明されており、実習に安全に臨むことができる。 ・ページ右上には、作業内容等より詳しく見るためQRコードがつけられている。 ・A、B、C、Dの各内容に関し、小学校や他教科とのつながりについて、左ページ右上に簡単な記載がある。 ・生活を工夫し創造する資質・能力を身につけられるように、基礎的・基本的な知識を精選し、身につけた知識や技能を使った実践的・体験的な課題解決学習を重視している。（p.74、116、182） ・社会で活躍する技術に携わる人を「技ビト」として紹介し、中学生に向けてのメッセージを記載している。（p.35、91、263） ・情報以外の内容で「導入題材」→「本題材」の流れで構成されており、実習を多く取り入れることができる。 ・他教科や小学校との関連については、教科のみの記載である。 ・E編「夢をかなえる技術」は統合的な問題解決について記述された項目だと思われるが、題材を見ると各内容を統合したものになっていない。 ・ガイダンスにおける安全指導について、加工学習に偏って紙面が割かれている。 ・「技術の見方・考え方」について、明確な解説がない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている内容項目は、すべて取り扱っている。 ・「導入題材」と「本題材」の両方を各内容で実施すると、分量が多い。 ・内容ごとの分量や項目による配当時間に差がある。 ・ガイダンスの量が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面に関する記述が、内容ごとに丁寧に記載されている。（p.24、84、132、206） ・編末問題は、評価の3観点に対応した問題で、学習をふり返ることができるようになっている。 ・「見つける」、「学ぶ」、「ふり返る」で学習理解の確認ができる。 ・教科書本体と別冊のハンドブックに分けた構成となっている。 ・（学校）全体的に情報量（実習例）が多いため、活動中に過去の内容をフィードバックしたい場合、結び付けが難しい。 ・教科書内に使用されているマークに関する説明がないため、教師が説明する必要がある。

	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は全ページカラー印刷であり、色の濃淡がはっきりして、色覚特性にも配慮されている。 ・印刷は明るく目にやさしい色合いで、文字の大きさも適当である。 ・本文の文字の大きさが見やすい。 ・資料の写真が小さく、細部が不鮮明である。(p. 86、99) ・画像の解像度が低いところがある。(p. 2下部)
2 選 定 の 観 点		<ul style="list-style-type: none"> ・作物の栽培、家畜の飼育、水産生物の育成や見学を行う際の心得が掲載されており、安全への配慮がなされている。(p. 85) ・家畜として、乳牛、採卵鶏、ブタの飼育、水産生物としてアワビ、ヒラメ、マダイの育成を3例ずつ掲載しており実習例が豊富である。(p. 106) ・自転車や蛍光灯、電池などの身近な製品の保守・点検の技術を取り上げ、技術を適切に評価し活用する能力の育成を目指している。(pp. 144～145) ・様々な発電技術の特徴を示すことで、社会的・環境的・経済的な視点で技術を評価し、活用する能力を育成することを目指している。(pp. 152～153) ・社会と関連させたサステナビリティを掲載しており、企業における持続可能な社会に配慮すべき3要素が理解できる。(p. 182) ・3Dプリンタを掲載しており、材料の技術や加工の技術の進歩について考えることができる内容としている。(p. 23) ・D内容におけるアクティビティ図の説明が分散して表記されており、わかりにくい。(p. 226、230)

発行者名		開 隆 堂 出 版
観 点		
1 各 教 科	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・学習指導要領に示す内容項目を取り上げており、内容の程度も生徒の発達段階に適応している。また、基礎・基本の習得から応用・発展的な学習へと系統的に展開されている。 ・各内容の範囲は、学習指導要領に適合して、生徒の生活体験に十分配慮し、授業時数などの学校事情や生徒の実態にも弾力的に対応できるように工夫されている。 ・ガイダンスにおいて、技術の歴史、現代の技術に関する資料等を掲載するなど、「生活を支える技術」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」についてわかりやすくふれている。
共 通 の 選 定 の 観 点	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「技術の見方・考え方」の解説表記があり、各内容における視点を明確にし、生徒が理解しやすい工夫がなされている。 ・技術分野の学習の流れについて説明するとともに、具体的な活動事例を漫画で分かりやすく記載している。 ・実習時の安全面等については、ガイダンスにすべての領域を網羅する事項が図を使用して説明されており、実習に安全に臨むことができる。また、チェックリストも記載されており、実習前の確認ができるように工夫がされている。 ・学習指導要領に示される「技術の最適化」についての記載がそれぞれ十分にされている（p. 15、p. 52、p. 88、p. 99）。 ・奇数ページ右上には、内容に関連した道具、計測機器等生徒の興味関心を高めるような写真や資料が掲載されている。 ・豊富な実習例があり、製作の流れをイメージできるように試作段階や完成品について写真と共に掲載されている。 ・A、B、C、Dの各内容について最初のページに、小学校や他教科とのつながりが、具体的な教科の単元や学年を記載し関連付けている。 ・「開発者に聞きました」のコラムにて、開発の意図や願いなどを取り上げている。（p. 9、p. 173、p. 247） ・統合的な問題解決に関する実習例が一事例である。（p. 256）
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容の範囲は、生徒の生活経験・生徒の実態に弾力的に対応できるように工夫されている。 ・内容は全体として系統的・発展的に組織されており、分量や配分は、偏りがなく授業時数や多様な指導計画などに適応できるように考慮している。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・表記は、見やすく整理され、配色にも気を配っている。 ・教科書内に使用されているマークに関する説明が丁寧で、マーク自体も簡素化されて見やすい。 ・レイアウトは見開きを有効に活用しており、本文および参考などの資料との区別が明確である。 ・どの実習例も、生徒の身近な例を複数挙げておりわかりやすい。また、技術の「見方・考え方」や「課題の設定」など流れに沿って記載されている。 ・各内容は、本文、図・イラスト・写真など、いずれも正確で、極めて分かりやすく丁寧に記述されている。 ・各題材にQRコードを記載されており、題材ごとに紐づけられているため、生徒がより主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「導入」「基礎学習」「展開」「まとめ・評価」の流れで、系統的・発展的に組織されている。 ・写真やイラストは分かりやすく、必要な箇所では生徒目線で作業を進めているようなアングルで使用されている。(p. 165、pp. 166～167、p177)
(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、資料の図や写真が鮮明で見やすい。また、フォントサイズ等も適切である。 ・印刷は全てカラー印刷で、カラーユニバーサルデザインを採用している。 ・用紙は薄くて丈夫であり、写真やイラストの色彩表現がよいものを使っている。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培ごよみに18種の草花、作物を掲載しており、それぞれの特徴をわかりやすく表記している。(p. 118) ・生物育成の技術をAIやビッグデータの活用と関連付け、情報の技術との組み合わせの視点を合わせた構成を図っている。(p. 137) ・職業の理解、職業観を育んでいる。(p. 173) ・「身の回りにあるエネルギー変換の技術」では身近な電気機器の構造についてドライヤーを取り上げており、興味を持って学習できるように工夫されている。 ・技術と社会・環境との関わりの理解を通して、生命や自然への敬意、環境安全に寄与する態度、他者や自然と共生する態度を養えるようにしている。(p. 143、pp. 151～153、p. 179、pp. 188～191) ・製作においてトレードオフの視点を示し、最適化を図った設計を行うことができる内容構成となっている。(p. 52) ・本文では情報セキュリティ、情報モラルの2つの内容に分け、それぞれ4ページ、6ページの合計10ページで系統立ててまとめている。 ・家畜の飼育、水産生物の育成の実習例が少ない(それぞれ1事例のみ)。

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（家庭）

報告書

令和2年 7月 3日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目 (家庭)

部 長 古閑 明子 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果を
まとめましたので報告します。

副 部 長 横 山 知 子 

委 員 寺 山 飛 鳥 

委 員 瀬 口 智 子 

委 員 大 塚 留 美 

委 員 森 友 由 季 子 

委 員 印

委 員 印

委 員 印

委 員 印

発行者名		東京書籍
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標達成に結びつく内容が網羅されている。 ・内容の程度は、生徒の発達段階に適応している。 ・学習指導要領に示す領域及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。 ・ガイダンスの内容は、三年間の学習内容や課題解決に向けた学習の進め方、目指す生徒の姿に加え、現在の自分を見つめるページがあり、生徒が主体的に考えやすくなっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、他教科との関連が色分けやマーク等で示されて、コンテンツとしても見ることができ、各教科との関連を図り、系統的・発展的な指導ができる。 ・本時の学習の導入に「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」が設定されており、体験的学習や問題解決的な学習が重視され、生徒の興味・関心を生かし、自主的・自発的な学習が促されるよう配慮されている。 ・活動や実習例が充実しており、主体的に考え調べたり、友達と協働して検討したりする設定となっており、主体的・対話的で深い学びが実現できるようになっている。(P215, 262 など) ・個に応じた指導ができるように、自らの生活を振り返って課題を解決するための発問が随所に設定されている。 ・災害に備えるための防災・減災に関する内容を充実させている。(p 174～177) また、各分野で、関わりのある内容は、防災マークで紹介している。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て適切である。 ・各領域の内容は偏りが無い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の最初に「生活の営みに係る見方・考え方」がマークやイラストで解説されており、学習の過程で理解を深めることができる。 ・発展的な学習内容は発展マークが用いられ、区別できるようになっている。 ・実物大写真（1群と5群の1日分の摂取量）（幼児の発達）があり、生徒の興味関心を高める工夫がある。(P 36～39) (P 226) ・学習内容の復習ページが、重要語句と課題形式になっており、学習した内容を自主学習で振り返ることができるよう工夫されている。 ・学習内容にそったイラストを各ページに載せているが、パラパラ漫画は、授業に集中できないことが危惧される。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、発色も適切である。 ・文字の大きさ・字体・ルビは、特別な支援要する生徒にも配慮されている。 ・材料は再生紙、植物油インキを使用し環境に配慮している。 ・用紙は軽量にしているが、紙質が薄いので、ページをめくりづらい。

<p>2 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末付録の「防災・減災手帳」「子どもの視界体験眼鏡」は学習内容と関連しており、生徒が活用しやすい。(学校) ・「プロに聞く」のコーナーの16人の専門家の話が、学習内容を深めるとともに、将来や社会とのつながりを感じられる内容となっている。 ・幼児のおやつの実習例が多く、蒸し料理も取り扱っている。(P230, 231) ・幼児の触れ合い体験前の安全・衛生に関する注意点がイラストで示されており、わかりやすい。(P240, 241) ・幼児との触れ合い体験が3パターン紹介されており、学校の実情に合わせた活用に配慮している。(P242~247)(学校) ・家族や地域の高齢者との関わりでは、高齢者の体の特徴や関わり方の説明があり、高齢者との関わりやすい生徒にとっても理解しやすい。(P258, 259)(学校) ・手洗いの大切さと調理実習の事故防止及び安全と衛生について、写真付きで丁寧に記載されている。(口絵P3, P54, 55)(市民・学校) ・栄養素と食品群の内容は、P27と、P33・34が横並び見ることができるようになっており、視覚的に捉えやすく、指導しやすい。 ・蒸し器がない場合の蒸し調理の方法を紹介しており、家庭での実践意欲を促している。(P60) ・だし汁の取り方は、2種類について写真でわかりやすく示している。(P63)(学校) ・日本の食文化、和食についての内容が適当である。(P90~95)(市民・学校) ・「持続可能な食生活を目指して」では、カーボンフットプリント・マークやマヨネーズ容器の軽量化の取組など、身近な生活で実践されている例を取り扱っている。(P98, 99)(学校) ・「日本の衣文化」で、「ライフイベントと和服」など、和服の文化についての内容が充実している。(P112~115)(学校) ・旧の取扱い表示の記載があることで、実際に自分が持っている衣服の表示についても理解することができる。(P120) ・現在の住居に和式が少なくなってきたため、和式の住まいの写真は分かりやすい。(P164) ・「活動 危険探しチェック」は、話し合い活動など、主体的・対話的な学びを実践しやすい。(P172, 173)(学校) ・「中高生が被害時にできたこと」や「避難所や仮設住宅の暮らしの工夫」は、防災時の共助について、生徒が主体的に考えられるものとなっている。(P176, 177) ・金銭管理の方法や消費支出における割合の円グラフの資料、活動「自分と家族の生活とお金の関わりを考えよう」により、金銭管理について、生徒が主体的に考えることができる。(P190, 191)(学校) ・消費者トラブルでは、生徒に身近なオンラインゲームのトラブルを取り扱っている。(P192, 193)(学校) ・「よりよい商品の選択と購入のための意思決定のプロセス」と活動「商品購入シミュレーション」が関連しており、生徒が主体的に取り組むことができる。(P196, 197, 199) ・ユニバーサルデザインについて、見開きで、基礎的・基本的な内容を確認できるようになっている。(P284~285) ・調理実習例の分量は適量であるが、丁寧に解説された実習例が少ない。(P67~69など) ・蒸し料理は実習例が少なく、参考例として、小さく掲載されている。(P76)(学校) ・支払方法では、キャッシュレス化にふれているが、現在、普及しているスマホ決済の内容が十分ではない。(P189) ・調理実習例の分量は適量であるが、丁寧に解説された実習例が少ない。(P67~69など) ・蒸し料理は実習例が少なく、参考例として、小さく掲載されている。(P76)(学校)
--	--

発行者名		教育図書
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭分野の目標達成に結びつく内容になっている。 ・内容の程度は、生徒の発達段階に適応している。 ・学習指導要領に示す領域及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科や小学校、他の学習との関連を示すリンクマークを用いており、系統的・発展的な指導ができるよう配慮されている。 ・話し合いや思考を深める場面をコーナーとして位置づけ、言語活動の充実を図っている。 ・どの分野も実習例が多く、習熟度にも配慮されており、一人一人が課題を設定して実習できるようになっている。(P124～129) ・調理実習では、手順の写真を、段階を追ってわかりやすく示している。(P125など) (学校) ・問題解決型学習の定着を図るため、「学びを生かそう」と「生活の課題と実践」のどのテーマも6ステップで統一している。(P286～287など) ・A及びCの内容において、難しい文章があり、カリキュラム作成に工夫が必要である。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数からみて、分量は適切である。 ・学習内容が網羅されており、資料の情報量が豊富である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭や巻末の付録、年中行事と私たちの暮らしや食品シールは学習において活用しやすい。 ・発展的な学習内容は発展マークが用いられ、区別できるようになっている。 ・学習の振り返りとして自主学習できるページがあったり、巻末に生活の実践と課題の例を紹介したり、自主的・自発的な学習が促されるように配慮している。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・内容ごとに配色を工夫している。 ・環境に配慮し、再生紙・植物インキを使用している。 ・暖色系の色が濃いので、図表は、文字より色が先に目に留まる。(P97など) ・紙質はしっかりしているが、全体的に重く、持ち運びに負担がかかる。

<p>2 家庭分野の選定の観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「先輩に聞こう」では、体験に基づいた話が学習内容を深めるとともに、将来について考える内容となっている。 ・年中行事の一覧ページがあり、伝統文化についての関心を高めるとともに、食生活の学習への意欲を高める資料となっている。(口絵3, 4) (学校) ・コミュニケーション・ツールの例は、視覚的に分かりやすい具体例が数多く紹介されている。(P 19) ・高齢者とのかかわりでは、高齢者や特別養護老人ホームの方の話が掲載されており、学びを深めることができる。(P 35) ・「幼児のおやつ」では、安全面の配慮として、食物アレルギーへの配慮と、こんにやくゼリーの表示が取り扱われている。また、蒸し料理である蒸しパンが紹介されている。(P 48) ・「幼児の遊びと発達のかかわり」では、数多くの写真で、視覚的に幼児を捉えることができる。(P 50, 51) ・安全・衛生に関する注意点が、イラストや写真とともに詳しく記載されている。(P 59、111、口絵) (市民、学校) ・調理実習の食材の一つ一つを、マークで6つの食品群と関連を図って、学習内容の定着に配慮している。 ・蒸し料理では、肉の調理、魚の調理、野菜の調理、間食、それぞれに実習例を挙げており、しっかりと取り扱っている。(P 129, 137, 143, 149) ・蒸し器を使わない蒸し料理の調理方法を紹介している。(P 137, 143) ・「だし」については、和食の基本として、様々なだしの材料や混合だしの取り方を取り扱っている。(P 155) (学校) ・和式の住まい方について、「日本の伝統的な住まい」の写真を用いて詳しく説明している。(P 216, 217) ・家庭内事故について考える活動では、個人で考えを深めたり、話し合い活動をしたりするための効果的な資料が掲載されている。(P 226, 227) ・衣食住の生活すべてにおいて、災害時の対策を取り扱っている。(P 149, 185, 229~231) ・SDGsの17の目標について、生活と関連付けて自分の考えを記入する欄を設けるなど、題材を通して考えるように設定されている。(P 238, 239) ・計画的なお金の管理について考えさせるために、夏と冬の生活費の比較の資料が効果的である。(P 241) ・考えてみよう「商品購入の時どれを選択するか」では、衣生活・食生活との関連を図っている好資料である。(P 243) ・多様化するキャッシュレス決済では現在普及が進んでいるスマホ決済(タッチ決済, QRコード決済)が紹介されている。(P 251) ・若者の消費者トラブルの例が、具体的に扱われており、危機意識をもちやすい。(P 257) ・最初の実習例が食物アレルギーに配慮を必要とする生徒が実習できない例が紹介されている。(P 119) ・和服の取扱いについて、着物や袴の写真がない。(P 168, 169) また、洋服と和服の構成の違いが別のページで説明されており、指導がしにくい。(P 193) ・旧取り扱い表示の意味が簡略しており、かつ旧取り扱い表示がない。(P 174) ・基本的な補修の説明写真が小さく、わかりにくい。(P 186, 187) ・本時の導入の「見つめる」は、吹き出しの内容が偏った個人の考えで、課題意識をもつことが難しい場合もある。 ・考えてみよう「自分にとって家族・家庭とはどのような存在か」は、生徒の個人的な背景を踏まえた上で慎重に取り扱わなければならない内容である。(P 15) ・自然災害の備えでは、避難所についての具体的な記載や写真がない。(P 231)
-------------------------	---

発行者名		開 隆 堂 出 版
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭分野の目標達成に結びつく内容になっている。 ・内容の程度は、生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す領域及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。 ・ガイダンスの内容が整理されており、生活の見方・考え方を働かせることを促すような内容になっている。(P 6, 7)
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・導入課題が身の回りのことを基にした課題であり、意欲的に取り組むきっかけになっている。(P 28, 252など) ・リンクマークを表示し、小学校での学び、他教科、他分野の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるように配慮されている。(P 112など) ・アクティブ・ラーニングの学習技能が、「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」の4つに分類して示されており、自主的・自発的な学習が促されるように配慮している。(P 23, 178, 109, 242) ・「生活に生かそう」では、学んだ知識・技能を実生活に即して考えられるように配慮されており、個に応じた指導ができるように配慮されている。(P 41, 213, 221, 243) ・各題材の最後に、「持続可能な社会を目指して」の内容を取りあげている。また、SDGs と家庭生活のかかわりを主体的に考えられるように配慮した内容となっている。(P 64~66, 152~155)
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数から見て適切である。 ・各領域の内容は偏りが無い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習内容は発展マークが用いられ、区別できるようになっている。 ・実物大の資料があり、わかりやすい。(P 88~94) ・実習の写真が大きく、調理手順に沿った写真があり、見通しを持って実習をすすめることができる。(P 132など) ・題材のはじめに、「・・・わたしの興味・関心」を配置して、学習の動機づけを図っているが、背景の写真と質問の組み合わせが有効に働かない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・軽くて薄い紙を使用しており、紙質が滑りやすい材質でページがめくりやすく、軽量化している。 ・再生紙を使用し、植物性のインクを使用していて、環境に配慮している。 ・「消費生活と環境」では行間の様式が適切でない。(P 252, 253, 258, 259など) ・黄系の色が濃いため、ページによっては内容よりも色が目に留まる。(P 173など)

<p>2 家 庭 分 野 の 選 定 の 観 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各内容の最終ページに「持続可能な・生活」を位置付け、地域や社会に視野が広がるように配慮している。また、「SDGs とのかかわりについて話し合ってみよう」を設定し、対話的で深い学びとなるようにしている。(学校) ・「先輩からのエール」での18名の社会人の話が学習内容を深めるとともに、生徒が将来を考える参考となる内容となっている。(学校) ・幼児とのふれ合い体験が5パターン紹介されており、学校の実情に合わせた活用に配慮している。(P45～49)(学校) ・「多様な人々が暮らす地域」では、障がい者や外国人、LGBTについても取り上げて、共生について考える内容となっている。(P58, 59) ・「地域に暮らす高齢者」「高齢者とのかかわり」では、様々な高齢者を取り上げ、介助の仕方やかかわり方について具体的に理解しやすい内容となっている。(P60～63) ・「B衣食住の生活」では、中学生が身近に感じる資料から伝統文化を感じる資料まであり、考えの広がり補助している。食品の概量や浴衣の着方、災害を意識した話し合い活動の内容など、生徒自身が実践しやすい内容となっている。 ・「おいしさと調理」では、おいしさを、五感やうま味とだしと関連して考えさせる内容となっている。(P108, 109)(学校2) ・和食や郷土料理、行事食について、資料を豊富に取り扱っており、日本の食文化についての理解を深める内容となっている。(P140～145)(学校) ・蒸す調理については、蒸し器の使い方を示したり、実習例を紙面1Pを使って取り上げたりしている。(P112, 132)(学校) ・1日の献立についての学習が調理実習の後になっており、実践を伴って理解したことを基に考えることができる配列となっている。(P146, 147) ・調理実習例の「アレルギー物質を含む食材」を、色で網かけして、一目でわかるようにしている。(学校) ・和服の文化について、ゆかたを取り扱っており、体験的な学習となっている。(P166～169)(学校) ・災害についての巻末資料は、災害時はもとより、今できる備えについても詳しい資料であり、実生活での実践に役立つ内容である。(学校2) ・やってみよう「家の中の化学物質を探し、換気すべきところはどこだろう」は、実生活に即した問題解決型学習になってよい。(P216) ・やってみよう「キャッチセールスのロールプレイング」では、演じることにより、悪質商法の手口やどのように断ればよいかの実感を伴った理解につながる。(P247, 248, 249) ・クレジットカードやキャッシュレス化について、具体的に説明しているので、分かりやすい。(P238, 239)(学校) ・弁当作りの題材が分かりやすく、問題提起としている。(学校) ・栄養のバランスの問題提起の材料として、お弁当を取り上げているのがよい。 ・蒸す調理に関する実習例が少ない。(P132, 139)(学校) ・「中学に入学した時にどのような費用がかかったか」を考え書き出す活動は、日常的ではなく、特別な支出について考えさせる内容となっている。(P233) ・クーリング・オフとジャドママークの頁が別々になっており、関連づけて図ることができない。(P235, 251) ・幼児・高齢者の安全対策について、体や行動の特徴を提示したうえで、考えさせる内容にしたほうがよい。(P215) ・旧取扱い表示の表記がない。(学校) ・手洗いなど衛生を取り扱っているページが少ない。(市民) ・養子縁組、里親制度の取り扱いについては、家族関係が複雑化している現在、生徒のプライバシーを配慮する必要があるため、資料のみの記述の方がよい。(P24) ・食事摂取基準の学習の前に、五大栄養素の学習をした方が、「中学生に必要な栄養」のスムーズな理解につながる。(P80～83)
--	--

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（英語）

報告書

令和2年7月6日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目 (英語)

部長 善家三知代 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果を
まとめましたので報告します。

副部長 波多野 皓一 

委員 新郷 久恵 

委員 山口 直子 

委員 斎藤 政男 

委員 島田 みゆき 

委員 白川 博子 

委員 大峯 弘己 

委員 恵良 尚美 

委員 

観 点		発行者名	東 京 書 籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に結びつく内容になっており、生徒の発達段階に応じたものとなっている。 ・小学校との学習の接続を意識して作成されている。 ・言語材料の配置が一新され、目的・場面・状況がきちんと設定された上での主体的で対話的な学習を行いやすくなっている。 ・学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・3学年ではSDG sに基づき、文化や社会的な問題や現象について、他教科の内容とも関連させながら、英語で理解し、思考力・表現力の向上につながるよう工夫されている。 ・基礎的・基本的内容から、発展的な内容を表現できるように、各ステージ末のStage Activity では段階的に発信力に育成できる言語活動が設定されている。 ・SDG s など今日的な課題も多く取り上げられているが、生徒の関心をひく題材が少ないように感じられ、「やりとり」が制限されるような印象を受けた。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして図書の内容に適切に配分されている。 ・1年生には多いように思われる。 ・1ページにおける文字の情報量が多く、特別な支援を要する生徒にとっては、混乱を招く恐れがある。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・3学年では写真、グラフ、表などを数多く取り入れ、英語を使って思考力、表現力を高める工夫がされている。 ・資料編のWord Room では、語彙がジャンル別に豊富に示され、本体の学習を進める上で関連をもたせて用意されており、学習者が自分の言いたいことを表現できるように配置されている。 ・QR コードからと本文や語彙の音源を聞くことができ、映像も視聴可能で、リテリングを行うことを想定して作られている。生徒の自主学習への支援にも配慮されている。 ・ページ毎に小学校での既習単語が掲載されており学びの連続性を意識しやすい。 ・文字認識がしやすく、発音方法も簡潔に示されており、わかりやすい。 ・単元導入時でのリスニングの取扱いについては、工夫が必要である。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、手書き文字に近いフォントが使用されている。 ・教科書の大きさはA4判で、机上に置くには大きすぎる。 ・登場人物やイラストが特徴に欠け、印象に残らない。生徒の興味を引きつけられない。
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の外国語活動及び外国語での学習内容との連携を図るよう、内容、ページ構成などが工夫されている。 ・各Unitの初め(扉)には題材内容を示す大きな写真とともにGoalやPoint of Viewが示され、Unitの終わりにはGoalを達成できたかチェックし、生徒が自らの学びを確認する工夫がされている。 ・基本文のパターンプラクティスは本文内容とつながったものになっており、学習の意味合いを感じながら行うことができる。 ・Read&Thinkにも新出言語材料があるため、読解や思考を進めることが難しい。

観 点		発行者名 開 隆 堂 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料の配置が一新され、目的・場面・状況がきちんと設定された上での言語活動がしやすくなっている。 ・学習指導要領の学年内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げており、目標達成に結びつく内容になっている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入では、2コマのマンガ形式でしめすことで、英文がわからなくても、場面を理解することができる。 ・Think, Retell, Interact のサイクルで「伝え合う能力」、「話し合える能力」、「発表・討論・交渉などを行う能力」を段階的に習得できるようにバランスよく言語活動が設定されてある。 ・すべての単元に即興なコミュニケーション活動のコーナーがあり、身の回りの場面から社会的な場面まで、段階を踏んだ話す活動が設定されている。 ・「とびら」で1ページ全面を使って写真が掲載され、導入の言葉や学習目標が明示されている。 ・Our Project のテーマの内容が時期や生徒の実態に合わないものもあり、生徒にとっては現実味がなく意欲につながらないものもある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・分量は適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末のアクションカードは動詞が文字とイラストで表されているので苦手意識の強い生徒でも活動がしやすい。 ・QR コードからと本文や語彙の音源を聞くことができ、映像も視聴可能で、リテリングを行うことを想定して作られている。生徒の自主学習への支援にも配慮されている。 ・各ページに音読チェック欄があり、自己評価ができる。 ・ページごとに、めあてや活動についてわかりやすく書いており、活動に取り組みやすい。 ・4技能5領域別の「できるようになったリスト」が巻末に掲載され、生徒自身が学習の軌跡がわかるようになっており、3年間の学習に見通しをもたせている。 ・文法の説明が非常にシンプルで理解しやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、手書き文字に近いフォントが使用されている。 ・登場人物やイラストが生徒の興味を引く。 ・英語、日本語ともに全体的に文字が小さい。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・SDG s の視点に基づき、現在の生徒の興味関心を喚起する題材が豊富に配置されている。 ・小学校外国語活動との連結において、段階的な書字学習や文字と音の関係の学習など初歩的なアプローチが設定されており、小学校外国語活動で蓄積した知識・能力を基盤に中学英語へ移行することが可能である。 ・語彙や例文のヒントが少なく、幅広い表現活動に繋がりにくい。 	

観 点		発行者名 三省堂書店
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって馴染みやすい国や題材が多く、自己表現が容易な設定がされている。 ・書く活動では、予めクラスで協働的に行えるように活動が仕組みられており、自然な形でアクティブラーニングを取り入れることができる。 ・文法事項や文構造のみの理解にとどまる記述で、言語材料使用場面が、本文などと関連づけられておらず、活用場面が理解しにくい。 ・Project の内容が一般的でなく、限定的で、全員の興味を喚起するものではない。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の内容及び内容の取扱いに示す事項が、授業時数に照らして適切に配分されている。 ・1 ページにおける文字の情報量が多く、特別な支援を要する生徒にとっては、混乱を招く恐れがある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末の付録には、語彙や会話表現などがジャンル別に豊富に示され、生徒が自ら学び、使うことができ、自律学習できるようになっている。 ・ページごとに QR コードがついており、本文・語彙の音声モデルが確認できるが、音声のみであり、文字と結びつけることが難しい生徒には、聞きづらい。また、場面や状況の理解を助ける映像などは見ることができない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式、材料などが適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学、人権、共生などの現代的課題が取り扱われ、多様なものの見方や考え方について触れ、思考力や判断力を促す題材が扱われている。また、自国の文化を発信する題材が盛り込まれ、自国の文化を尊重するとともに、他国の文化にも理解を深め、国際社会に寄与する意識を育てる内容になっている。 ・新たな発見があるような題材がなく、文学作品などよさはあるが、オーソドックな内容が多い。取り上げた国の数が少ない。 ・言語活動の中で、たくさんの情報を与え、ステップを細かくしめしすぎており、生徒の思考が広がらない可能性がある。 ・CAN-DO リストは裏表紙に1 ページのみで、当該学年しか掲載されておらず、学びの系統性は意識しづらい。 	

観 点		発行者名	教 育 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領が示す内容及び内容の取扱いの事項を不足なく取り扱われている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> SDGsなどの今日的課題を多く扱い、特定の分野に偏らずバランスよく充実している。 lesson 末の文法のまとめが文字による解説で、理解しにくく、家庭学習しづらい。 全学年、SDGsに関する内容が身近な内容ではなく、共感や想像が難しい内容で、表現内容が制限される可能性がある。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> 1学年当初の小中をつなぐ段階で、文字数が多く、英文を読ませる活動が多すぎる。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> 一年生の教科書に小学校での表現を使ったすごろくによる表現活動が設定されており、楽しく英語でやりとりできる工夫がある。 英語の学び方のコツやルールが、各ページに身にコーナーとして掲載しており、活用しやすい。 音読の回数をカウントしてメモする欄があり、自律学習を助ける手立てとなる。 巻末の付録が豊富で、語彙や会話表現などがジャンル別に示されているが、対話の表現などが赤文字で書かれ、付属の赤シートを使いながら、表現を習得するようになっている。表現を丸暗記することに重点がおかれ、即興的に表現する力を育成することにつながらない。 巻末に3年間を見通したCAN-DOリストの内容が、大枠でわかりにくい。 レッスン最後の「Review」「Task」が本文とページが離れており活用しにくい。 QRコードでの音声フォローに語句の発音がない。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> 本文など英語表記の文字が小さく見づらい。 イラストが、配色が濃く、重い印象があり、やや不鮮明に感じられる。
2 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> lesson の終末の内容概要復習が要約文の適語補充となっており、当該言語材料を実際に活用できる力を育成するには及ばない。 文法事項や文構造のみの理解にとどまる記述で、言語材料使用場面が、本文などと関連づけられておらず、活用場面が理解しにくい。 中学校英語への導入単元が設定されているが、分量が少なく、移行単元としては不十分であると考えられる。

観 点		発行者名 光 村 図 書 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 目的・場面・状況がきちんと設定された上での言語活動がしやすくなっており、学年の生徒の発達の段階に適応している。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 本文が3年間を通じたストーリー仕立てになっており、生徒にとって日常的な目的・場面・状況の中でどのように英語を表現するのか、生徒が理解しやすいものとなっている。 文法事項が、言語の使用場面と意味・形を結びつけながら、習得できるように整理されており、生徒は理解しやすい。 各ユニットのパートを見開きで扱い、本文と新出事項、基礎的な練習が配置され、理解・定着が図れるように構成されている。 各学年の各学期末に、5領域を統合した言語活動が設定されている。目標の達成を目指し、表現すべき内容や英語表現を工夫することで、思考力・判断力・表現力を養うことができるものとなっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量は適当である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> リスニング問題は、絵や選択肢を効果的に用いたりして、苦手な生徒にも取り組みやすい構成となっている。 单元ごとに「めあて」（扉のページ）、「Goal」（まとめの言語活動と振り返り）があり、单元ごと自分の学びの成果を確認できる。 「学び方ガイド」等を各学年で設け、英語でのコミュニケーションや英語の学び方や、単語集などのヒントが掲載されており、生徒の学習を促す資料として活用できる。 QRコードでの音声フォローには本文のみで語句が含まれていないが、ピクチャーカードを見ながら本文の音声を聞くことができ、アニメのように楽しみながら学習できるよう工夫されている (学校)音の文字の関係が、巻頭にまとめて掲載されて、活動を通して、わかりやすく学べるように工夫されている。 巻末にストーリーテリグがあり、学習した内容を表現しやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> イラストが落ち着いた配色で、優しく刺激が少ない。 扉のページだけでなく練習問題にも写真が豊富に使われており、より現実的な場面を想起させ、英語を使いたくなる雰囲気を醸し出している。 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、行間及び製本の様式などが適切である。
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> AIやSDGsなど今日的な課題も取り上げられており、世界の学校の様子や同年代少女の世界的に有名なスピーチなど身近で共感しやすい題材が掲載されている。 ウェブサイトやポスターなどから自分が必要な情報を探す活動が設定されており、英語学習の意義を感じながら学習に取り組める 小学校からの接続单元としてのLet's be friends!では既習表現を短時間で学習できるように端的にまとめている。 身近な話題を多く扱っており、共感しやすい反面、体験したことのない、題材や話題などもっと幅広く多方面から、題材を掲載したほうがよい。 CAN-DO リストは各学年巻末に掲載されているが、当該学年のものだけであるので、3年間を通したのものであるとよい。 	

観 点		発行者名	新興出版社啓林館
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に結びつく内容になっており、生徒の発達段階に応じたものとなっている。 	
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> Unit と Part の冒頭に学習到達目標や4技能5領域を示すマークが明示され、学習者が学習の目標や身に付けるべき技能を意識ながら学習に臨むことができる。 習得した知識・技能を活用して、課題を解決する場面が設定されている Project では発展学習として、自己紹介や学校紹介、あこがれの職業に関する発表活動など生徒にとっても馴染みやすく、4技能5領域を統合するコミュニケーション活動が設定されている。 Practice のコーナーでは、生徒が絵を見ながら興味をもって言語材料を活用し、習得できるように工夫されているが、文法事項や文構造のみの理解にとどまる記述で、言語材料使用場面が、本文などと関連づけられておらず、活用場面が理解しにくい。 	
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 分量は適当である。情報量が精選され、見やすい。 	
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> QR コードでの音声フォローが充実している。場面や状況の理解を助けるために映像はないが、語句と本文音声のみならず、文字で英語と日本語での意味と両方表示され、自律学習を促し、大変活用できる。 表紙に掲載された QR コードから、全学年すべての語彙や本文を聞くことができる。 すべての学年において、学習過程がパターン化され、知識・技能の習得、活用・定着という学習の深まりに有効に働くように言語活動が設定されている。 話題に関連する他の様々な情報が掲載されているが、日本語による記述であり、英語を読むことにつながらない。 	
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> Unit ごとに色が統一されていて、文字や紙面がすっきりとしており、見やすい。 巻末の前置詞のイメージイラストは分かりやすい。 文字が小さめでやや不鮮明に感じられる部分がある 	
2 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> 小学校との接続ページでは、小学校で学習した内容をふりかえることができる構成になっているが、言語材料配列などに学びを生かした工夫がない。 特に can の取り扱いが最初の project (自己紹介) の後という点から、小学校の学びが生かされていない。 生徒が表現活動を、自主的に進めるための表現や語彙の例示が少ない。 話す活動では、会話の話題や始め方の例示は記述されているが、会話が続くような表現の例や、ポイントなどの記述が少ない。 		

令和三年度使用中学校

教科用図書採択に関する教科用図書選定会議

専門調査研究会（道德）

報告書

令和2年 7月 8日

北九州市教育委員会

教育長 田島 裕美 様

専門調査研究部会 種目 (特別の教科道徳)

部長 児島 誠 

令和3年度使用中学校教科用図書の調査研究について (報告)

このことについて、当専門調査研究部会は、慎重に審議を重ね、別紙のとおり調査研究結果をまとめましたので報告します。

副部長 下瀬 美歩 

委員 城野 聖奈 

委員 大村 竜一 

委員 毛利 翔子 

委員 阿部 一郎 

委員 印

委員 印

委員 印

委員 印

発行者名		東京書籍
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 主たる教材が28教材、「付録」で7教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> いじめや生命尊重の題材では、2単位時間で実施することで、親しみやすい内容から深く考えさせる構成になっている。 巻頭に「道徳の授業はこんな時間に」が設定されており、話し合いの手順と教材が設定されており、授業開きが行いやすい。 1学年の教材に、小中の関連を図った教材を用意したり、各学年の発達段階を考慮した配置をしたりするなど系統的に学習できる内容になっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> (学校) 小さなホワイトボード「みんなで意見を書こう」や葛藤教材等で気持ちの変化を可視化したり確認したりできる「心情円」は、話すことが苦手な生徒でも自分の気持ちを伝えやすくなり、話し合い活動で活用しやすい。 学期ごとに「自分の学びをふり返ろう」がついており、生徒の自己評価や授業の評価にも活用できる。 生徒に考えさせたい内容(主題)が題名となっており、この教材で何を考えるかを生徒が把握しやすくなっている。 教材によっては、テーマを考える際の教材として漫画の一コマが掲載されており生徒がより身近なテーマとして考えることができるようになっている。 新しい読み物教材や存命中の人物にかかわる題材が多いが、文科省作成の読み物教材等が少なく、これまでの授業研究の良さが活かされにくい。 「つぶやき」欄がどのように活用してよいか分かりづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルフォントが採用されており、印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 教材によっては、見開きで写真やイラストが掲載されており、とてもインパクトが強くなり内容を把握しやすくなっている。 教材によっては、2段組み、3段組みのものがあ文字が小さく、読みにくい箇所がある。
2 選定の観点		<ul style="list-style-type: none"> 各教材で「考えよう」で道徳的価値に迫る発問と、「自分を見つめよう」で自己をみつめる発問が設定されており、人間としての生き方を考えられるようにしている。 各教科の関連が意識しやすいように、各教材にマークで示されており、デジタルコンテンツを使って他教科の関連部分の内容を教科書紙面で見たりすることができる。 各学年で2教材ずつ「ACTINON」を設定し、役割演技等の体験的な学習を通して、学習内容を自分事として捉え、考えを深めることができる内容になっている。 4～5月にいじめ問題対応ユニットを配置しており、いじめ問題について多面的・多角的に考えていける内容になっている。 SDGsに関連付けられる内容が薄い。

発行者名		教育出版
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮しているといえる。 ・ 主たる教材が30教材、「補充教材」で5教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の理解を促すために、挿絵や写真等を効果的に使用している。 ・ 話し合い活動を活発に行うための手引きの掲載が少なく、議論が深まりにくい可能性がある。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5行ごとに行数が「1・・・5・・・」と示してあり、数えやすい。 ・ ワークシートや振り返りシートなど生徒が記述するページが少ない。 ・ 言葉の注釈が少なく、生徒が教材を理解しづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルフォントが採用されており、行間も広く、見やすい。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年の教材では、本市にゆかりのあるスポーツ選手を取り上げている。 ・ 教材名の下に授業の導入になるような問いがあり、生徒の興味・関心を高めることができる。 ・ 「学びの道しるべ」では、授業を構成するための発問が示されており、若年教員にも使いやすい。 ・ (市民) 内容がわかりやすく読みやすい。都道府県にゆかりの人などが載せてあり親しみやすい。 ・ 巻末の「道徳の学びを振り返ろう」では、生徒の道徳科に関する成長の様子を見とりにくい。 ・ SDG sに関連付けられる内容が薄い。 	

発行者名		光村図書出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 生徒に身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材が31教材、「付録」で4教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の定番教材が付録教材として設定されており、学び直しや自分の成長を振り返ることができるようになっている。 ・ 3学年ともに第1教材に「道徳の授業を始めよう!」、最終教材には「道徳の学びを振り返ろう」が設定されており、1年間の学びの見通しをもって取り組むことができるようになっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1「考えよう」、2「見方を変えて」、3「つなげよう」という流れで発問が設定され、主体的に考え、多面的・多角的な見方を引き出し、他教科や日常生活と関連させながら考えを深めることができる。 ・ 巻末の「学びの記録」は、生徒が1時間ごとの振り返りを記録できる。 ・ イラスト等でわかりやすく教材が示してあり、生徒が内容を理解しやすくと共に、興味関心を高めることができるようになっている。 ・ (学校) シーズン1～3になっており、時期に応じて利用できる内容になっている。 ・ 「つなげよう」の発問が点線で囲まれており、補足的な印象をうける。 ・ 新しい読み物教材が多く、生徒にとって読みやすい資料となっているが、これまでの授業研究の良さが活かされにくい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ カラーユニバーサルデザインやユニバーサルフォントが採用されており、印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 ・ 文字数の多い教材がある等、統一感がない。 ・ 見開きで始まらない教材があり、教材に集中しにくい。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめ問題」「情報モラル」については、「深めたいむ」を全学年に設け、3年間を通して考えられるようにしている。 ・ 様々な障がいを取り上げており、現在の社会情勢や課題等を考える場が設定してある。 ・ 巻末に著名人の直筆メッセージが掲載してあり、授業と関連付けて活用できる。 ・ 3学年で「SDGs」について取り上げている。 	

発行者名		日本文教出版
観点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材の35教材に加えて、多くのコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間で共通のテーマを設定し、系統的な指導ができる。また、『いじめ』と向き合う』ことについて重点を置き、直接的・間接的にいじめについて考えることで、多面的・多角的に学べるように構成されている。 ・ 「考えてみよう」、「自分に+1（プラスワン）」という流れで発問が設定され、「主発問につながる問い」から「自分事として考える問い」の順になっており、学習の流れがわかりやすい。 ・ 教材として取り上げている人物に関する参考資料や人物からのメッセージが記載されており、生徒の興味関心をひきつけることができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「プラットフォーム」や参考資料などが多く掲載されており、学習をより深めることができるように配慮されている。 ・ タイトルと同時に登場人物が紹介されており、内容把握が行いやすく、議論の時間を確保しやすい構成になっている。 ・ 別冊「道徳ノート」は、発問欄が空白になっており、教員の自由な授業展開が可能である。しかし、教員によっては活用に苦慮することも考えられる。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルフォントが採用されており、印刷も鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 ・ 教材によっては、見開きで写真やイラストが掲載されており、とてもインパクトがあり、より内容を把握しやすくなっている。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科における定番の題材が網羅されており、これまでの授業研究が多く、若年教員も参考にしやすい。 ・ 教材ごとに主題名が掲載されており、この教材で何を考えるかを生徒が把握しやすくなっている。 ・ 「学習の進め方」では、グループでの話し合い、問題解決的な学習や体験的な学習（役割演技）等を写真で示すなど分かりやすくしており、体験を通して考えを深めることができるようになっている。 ・ （学校）別冊「道徳ノート」は、教材ごとに1ページで構成されており、生徒は書くことにより自己を振り返り、見つめることができ、教員は生徒の考えや変容を把握しやすい。 ・ SDGsに関連付けられる内容が薄い。 	

発行者名		学 研 教 育 み ら い
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材の35教材に加えて、多くのコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の終わりに「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」等が配置されており、多様な学習ができるようになっている。 ・ 「22の鍵」や「様々なテーマで学ぼう」等、3年間を通して系統的に学習できる構成になっている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「考えよう」で発問の例示があり、授業展開の参考になる。 ・ 「マイプロフィール」、「心の四季」、「学びの記録」が設けられており、1年間の成長を感じられるものになっている。 ・ 教材名の下に「キーフレーズ」があるが、発問になっているもの、あらずじになっているもの等、統一性がない。 ・ 「メモ」欄がどのように活用してよいか分かりづらい。 ・ 各教材に生徒が記述し、振り返りができる箇所が少ない。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインに配慮して制作されている。 ・ 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年の教材では、本市にゆかりのある俳優を取り上げている。 ・ 「深めよう」では、自分の考えを書いたり、グループで話し合ったりできるようにしている。 ・ 「生命尊重」や「いじめ」について考えさせる教材が豊富で、生徒にとって身近に感じられる構成になっている。 ・ 巻末に年間で4回分、道徳の授業について振り返る箇所があり、評価の参考にできる。 ・ 「考えよう」の発問例に、自己を見つめる発問が設けられていない教材がある。 	

発行者名		廣 濟 堂 あ か つ き
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材が35教材に加えて、多くのコラムが収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材に「考える・話し合う」が示され、内容理解や主発問につながる問いや、自分の事として考えるための1単位時間の学習の流れが示されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。 ・ (学校) 1単位時間での50分間で取り扱うには、内容量の多い読み物教材があり、生徒によっては内容理解が難しいものがある。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの授業研究の豊富な教材が多く収録されており、若年教員も参考にしやすい。 ・ 巻末で、「考える・話し合う」では、学習の手がかりで、道徳的価値を深め、考えを広げる・深める」では、自己をみつめる発問になっており、人間としての生き方を考えられるようにしている。 ・ 別冊「中学生の道徳ノート」の学習の記録は、罫線のみで使用しづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、文字の大きさ、字体、製本等が適切である。 ・ 見開きで始まらない教材があり、教材に集中しにくい。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の最後には、偉人や著名人の言葉が記載しており、学習の展開中で活用できる。 ・ 各学年とも巻末に「いじめ」「情報モラル」「SDGs」に特化したコーナーがある。 ・ 別冊「中学生の道徳ノート」には、読みもの資料やアンケート、総計資料等の資料が充実している。 ・ 教材の始めは教材名のみ記載にしている。そのため明確な導入（道徳的諸価値への方向付け）が必要となる。 ・ 話し合い活動や体験的な学習等の主体的な学習活動の工夫についての手引きとなるような記載がないため、学習が進めにくい。 	

発行者名		日 本 教 科 書
観 点		
1 各教科共通の選定の観点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に示された内容項目について、すべて取り上げている。 ・ 全体的に生徒の身近な出来事を教材として取り上げており、生徒の発達段階を考慮している。 ・ 主たる教材の37教材が収録されている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「もっと知りたい」「考えてみよう」では、教材に合った資料が掲載されており、生徒が議論や話し合い活動が活発になるよう工夫している。 ・ (学校) 巻末の「心の成長を振り返りましょう」での「レベル」という記述は、道徳科の授業の中では適切ではない。 ・ (市民) 巻末の自己評価表は、「評価しない教科」となっている道徳科と矛盾している。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容項目が適切に配置されており、35単位時間で扱うことができる分量である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして深めよう」では、内容理解や主発問につながる問いとなっている。 ・ 「もっと知りたい」「話してみよう」等のコラムを設け、道徳的価値についてより深く考える工夫をしている。 ・ 内容項目順に教材が配列されているため、学校の実態をふまえた年間計画を作成するよう配慮が必要である。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印刷は鮮明であり、字体、製本等が適切である。 ・ 3学年のp27等のように背景の写真と文字が重なり見えにくい箇所がある。
2 選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省作成の教材を多く取り入れており、授業研究の豊富な教材が多く、若年教員も参考にしやすい。 ・ 3学年のp78等のように世界の国々との比較のデータを示すことで、国際的な視野に立つことの大切さを伝えることができる。 ・ 巻末の「私の道徳記録」を利用することで、生徒が一年間を振り返ることができる。 ・ 「考え、話し合ってみよう そして深めよう」では、生徒が自己をみつめるような発問が少なく、自分事として考えにくい。 ・ SDGsに関連付けられる内容が薄い。 	